

氏名	大 原 利 憲
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1292 号
学位授与の日付	昭和57年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	実験的急性膵炎における糖代謝の変動
論文審査委員	教授 寺本 滋 教授 長島秀夫 教授 産賀敏彦

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

急性膵炎にみられる糖代謝の変動を検討する目的で以下の実験を行った。

雑種成犬を使用し、自家胆汁膵炎群， trypsin 膵炎群， collagenase 膵炎群を作成し， 24 時間にわたり glucose, immunoreactive insulin (IRI), immunoreactive glucagon (IRG), catecholamine の変動を測定した，さらに機能試験として 24 時間後に IVGTT (経静脈的糖負荷試験)， 7 日目に arginine 負荷試験を行った。

- 1) 急性膵炎発症初期にみられる血糖上昇は， IRI, および IRG の上昇する胆汁膵炎軽症型と trypsin 膵炎群ではみられたが， 両者の上昇がみられない collagenase 膵炎群では認められなかった。しかし，胆汁膵炎重症型では IRI および IRG の初期上昇がみられるにもかかわらず，血糖低下が認められた。これらの事より，発生直後の血糖上昇は IRI, IRG のバランスで規定されると考えられ，胆汁膵炎群重症型でみられた低血糖は，ラ氏島 β 細胞破壊にともない多量の insulin 漏出が起こり，つづいてこれが胸管を経由して血中に流れこむためと解釈された。
- 2) 24 時間後の IVGTT では， 3 群とも IRI は正常の 3 ～ 5 倍の高反応， IRG も反応性低下を示したが全体的には高値であり，特異的な過剰反応期が存在すると考えられた。
- 3) 7 日目の arginine 負荷試験では IRI, IRG とも低反応であり膵内分泌の機能低下が観察された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は急性膵炎における内分泌動態を実験的に研究したものであるが，糖代謝の変動を経時的に追求検討して重要な知見を得たものであって価値ある業績である

と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。